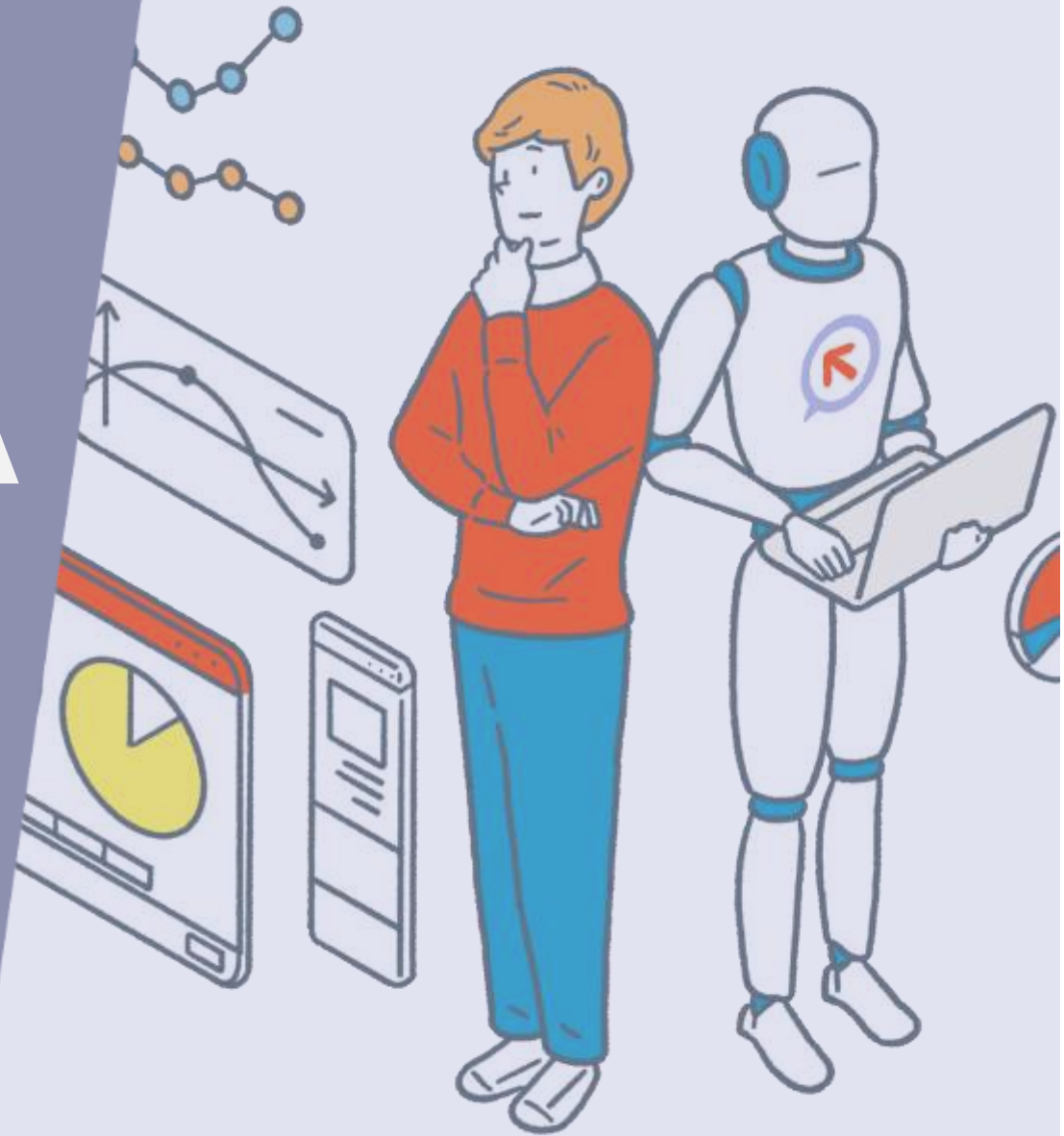


WinActor製品紹介資料 目次

1. 現場フレンドリーなRPA WinActor
2. WinActorが現場フレンドリーな3つの理由
3. WinActor導入事例
4. 製品ラインナップ

現場フレンドリーなRPA WinActor



RPAとは (1/3)



- RPAは一般社団法人日本RPA協会により、以下のように定義されています。

“RPA(Robotic Process Automation)は、
これまで人間のみが対応可能と想定されていた作業、もしくは
より高度な作業を**人間に代わって**実施できる
ルールエンジンやAI、機械学習等を含む**認知技術を活用した**
業務を代行・代替する取り組みです。”

——— 日本RPA協会HPより

RPAとは (2/3)

- RPAとは認知技術（テクノロジー）を活用して人間に代わって業務を代行・代替する取り組みのことです。人とRPAによる業務の特徴を比べました。

人が手作業



- ✓ミスする
- ✓疲れる
- ✓属人化しやすい



RPAが代行・代替



- ✓ミスしない
- ✓疲れない
- ✓標準化する

RPA導入が進む背景



- 近年、政府主導で「働き方改革」が推進され、また企業活動のデジタル化を目指す「DX (Digital Transformation)」の気運が高まり、業務の自動化ツールであるRPAが注目されてきました。2020年には「新型コロナウイルス対策」として企業にとって業務のテレワーク化が社会的に求められており、RPAによる業務の自動化はより一層注目されています。

RPA導入が進む背景

政治・働き方改革

経済&技術・DXの気運

社会・新型コロナウイルス対策

RPA導入が寄与すること

自動化による業務効率化

アナログ業務のデジタル化

テレワーク化で社員を守る

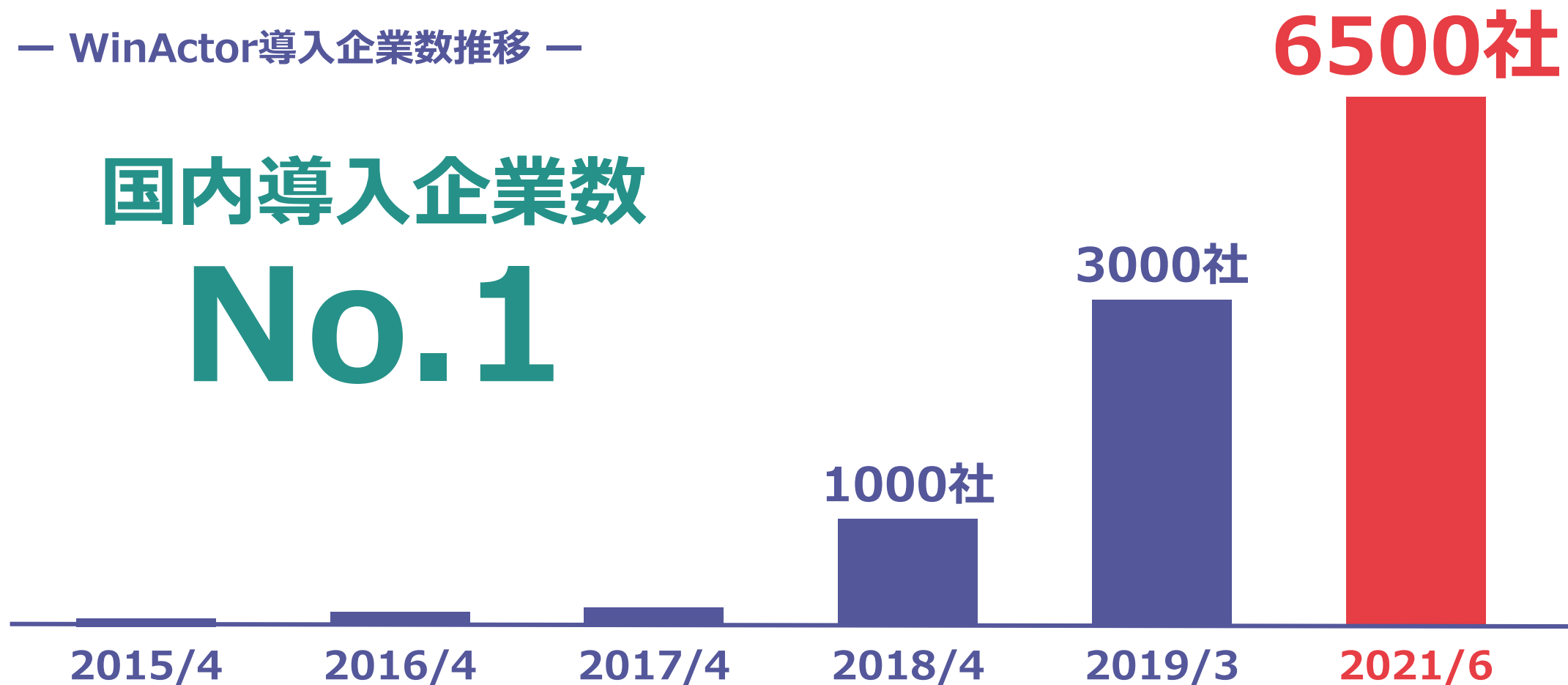
WinActor導入企業数



- 2021年6月「現場フレンドリー」なWinActorを多くのお客様に選んでいただき、**導入企業数が6500社を突破**いたしました。

— WinActor導入企業数推移 —

国内導入企業数
No.1



選ばれるWinActor



- “導入したRPA”のアンケートで第1位が WinActor となりました。（図1）
- WinActorの選定理由は「操作が簡単でわかりやすい」「導入が簡単ですぐに使い始められる」「価格が安い」などが上位を占めています。（図2）

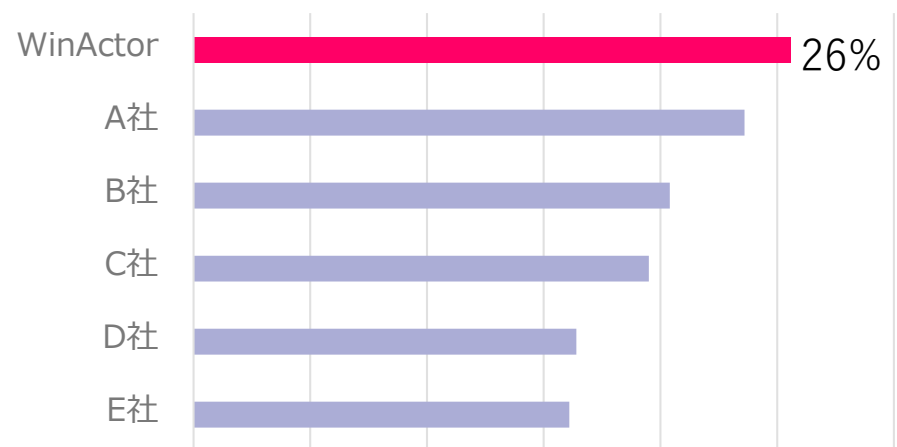


図1 導入したRPA

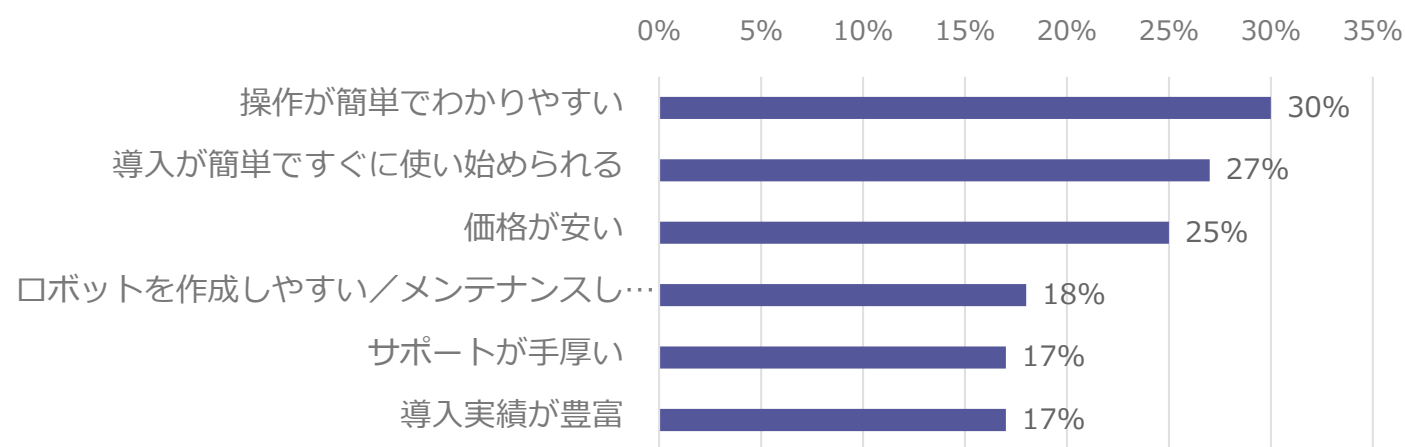


図2 導入済みユーザーにおけるWinActor選定理由

導入率No.1

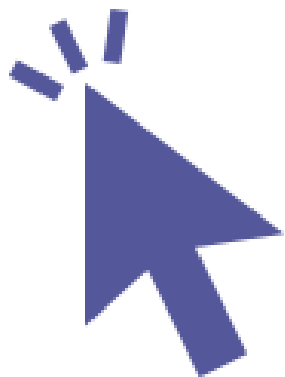
WinActorが 現場フレンドリーな 3つの理由



WinActorが「現場フレンドリー」な3つ理由



WinActorは現場にとって ——



使いやすい



作りやすい



安心サポート

だから「現場フレンドリー」

使いやすいから「現場フレンドリー」

- WinActorは現場の使いやすさを追究してきました。



✓ 長年現場の声を聞き続け洗練されたUI

2010年の研究開発開始から、現場のユーザーの声を聞き反映させ続けてきたことで、RPAという独特なツールのUIを、洗練されたものに仕上げました。

✓ 直感的に操作できる初心者向けシナリオエディタ*

プログラミング要素を極力排除し、プログラミング未経験でもドラッグ&ドロップなどのマウス操作で直感的にシナリオ作成ができます。

使いやすい

✓ バージョンアップで向上した処理速度・画像認識精度

- ・ 処理速度向上により、シナリオ作成をより効率的に進めることができます。
- ・ 画像認識精度向上により、画像認識の幅が更に広がりました。

作りやすいから「現場フレンドリー」

- WinActorは現場目線で作りやすいRPAツールを目指しました。



✓ **日本企業の業務プロセスに適合したライブラリが豊富**

日本で生まれたWinActorは、企業独自のシステムやツールが多いといった日本企業特有の条件・業務プロセスにも対応し、シナリオの作りやすさを高めています。

✓ **よくある業務に即したサンプルシナリオが豊富**

WinActor bizサイトに公開されているサンプルシナリオをダウンロードして使うことで、より効率的にシナリオ作成することができます。

作りやすい

✓ **かゆい所に手が届くプチライブラリが豊富**

NTT-ATが現場の声を聞き、プチライブラリ(シナリオの部品)をWinActor bizサイトに公開。サンプルシナリオ同様、ダウンロードしてそのまま使うことができます。

安心サポートが「現場フレンドリー」



- WinActorは数々の安心サポートで現場をつまづかせません。



安心サポート

✓ 完全日本語対応

RPAツール画面、マニュアル、サポートなどすべて日本語対応しています。

✓ ユーザーをつまづかせないサポートツール

シナリオ作成チュートリアルや、検索できるWebマニュアルなどのサポートツールにより、WinActor導入につまづきません。

✓ 探しやすい充実したFAQ

導入社数の多さと販売代理店のネットワークを生かし、日々FAQを充実させています。

✓ 販売代理店の手厚いサポート

お客様のお悩みに応じて販売代理店が直接サポートします。



アデコ株式会社様 ー常駐先業務環境の変更なしで効率化に成功ー

- アデコ様は、北陸電力様向けにコールセンターの常駐型アウトソーシング業務を行っていましたが、**採用難から稼働不足**となり業務効率化が課題となっていました。**常駐先システムやサーバなどの業務環境の変更や要員増強は難しく**、どのように解決するか悩んでいました。

導入企業プロフィール

業種：サービス業

導入期間：3年

従業員数：約3000名

導入体制：4名

導入企業担当者の声

“業務環境の変更が不要かつ現場でメンテナンスができるWinActorは、**常駐業務での利用に向いています**。”

アウトソーシング&ソリューション事業本部
シニアスーパーバイザー 武井 崇様

ー 現状と課題 ー

採用難による 稼働不足

売り手市場の影響で採用難が顕在化。稼働不足となり、業務効率化が切迫した課題となった。

常駐先業務環境の 変更制限

常駐先業務のため、サーバーやシステムなどの環境変更による効率化は困難であった

専任のメンテナンス 要員確保が難しい

自社からも顧客からも専任のRPAエンジニアをメンテナンス要員として配置することは困難であった。

ー WinActorの選定理由 ー

WinActor®の特長



自動化による
業務効率化



クライアント型で
運用可能



現場でメンテナンス
できる操作性

常駐先業務特有の課題解決にマッチ

ー WinActor導入の効果 ー

常駐先の環境変更なしで業務効率化

常駐先社内でも注目されるほどの成果

馬場石油様 一属人化した見積書作成業務の自動化に成功

- 熊本県で石油配送事業をしている馬場石油様は**限られた人員で「働き方改革」を検討**していました。特に、日々変動する石油の単価、配送の距離と頻度から正確な見積額を算出しないといけない**見積書作成業務は複雑で属人化していることが課題**でした。

導入企業プロフィール

業種：石油販売

導入期間：3か月

従業員数：14名

導入体制：2名

導入企業担当者の声

“**どんどん適用範囲を広げていきたいと思っています。**
良いものだとわかっているので、もっとお近づきになれば。”
 IT担当 馬場桂子様

— 現状と課題 —

限られた人員で
働き方改革

限られた人員の中でも人的ミス減らして、業務を標準化し、働き方改革を実現したい。

事業に適したパッケージシステムなし

単価が日々変わる石油配送事業に適したパッケージシステムがなく、外注開発はメンテナンスが課題。

見積業務の属人化

システム化されない見積書作成業務は手作業で複雑な処理が必要となり、属人化していた。

— WinActor導入の取り組み —



WinActor以外の新規システム・ツール導入なしで**業務の自動化に成功**

— WinActor導入の効果 —

誰でも・短時間で・正確な見積書作成ができるように

100時間の年間業務時間削減

ニチレイロジグループ本社様 —WinActorの全社展開に成功—



- ニチレイロジグループ本社様は働き方改革に取り組み、事務業務の軽減を中心施策のひとつに捉えていました。しかしExcelやAccessを自動化ツールとして活用してきたものの、**個人のノウハウに依存しブラックボックス化しやすく展開に繋がらない**という課題を抱えていました。

導入企業プロフィール

業種：物流

導入期間：3か月

従業員数：約5000名

導入体制：5名

導入企業担当者の声

“業務を「いい方向に変えよう」とするマインドが生まれ、事業所のコミュニケーション活性化にもつながっています。”

業務改革推進部 部長代理 勝亦充様

— 現状と課題 —

ブラックボックス化
により展開困難

ExcelやAccessでは個人の知識やノウハウに依存し、ブラックボックス化しやすく展開が困難だった。

「自動化」への
マイナスイメージ

現場では「自動化」に対するマイナスイメージが残り、展開に対して協力が得づらくなっていた。

自社のリソース不足

展開後を想定すると、出張やオンサイト対応ができ、技術面でサポートできるリソースが必要。

— WinActor導入・展開の取り組み —

特定の事業所でWinActorを試用し成果を出したのち以下の施策に取り組みました。

- ・社内WA活用事例動画を作成しメリットを普及
- ・50回の業革セミナー開催（のべ700名以上参加）
- ・女性限定WinActor開発合宿（40名参加）
- ・各事業所の担当者が孤立しない環境作り

「当たり前だった業務」を
変えていくマインドが浸透

自社の業革推進事務局のリソース不足を技術サポートパートナーで補いました。

- ・ナレッジの蓄積
- ・管理ツールやガイドラインの構築
- ・教育担当者の育成
- ・全国各地への出張対応

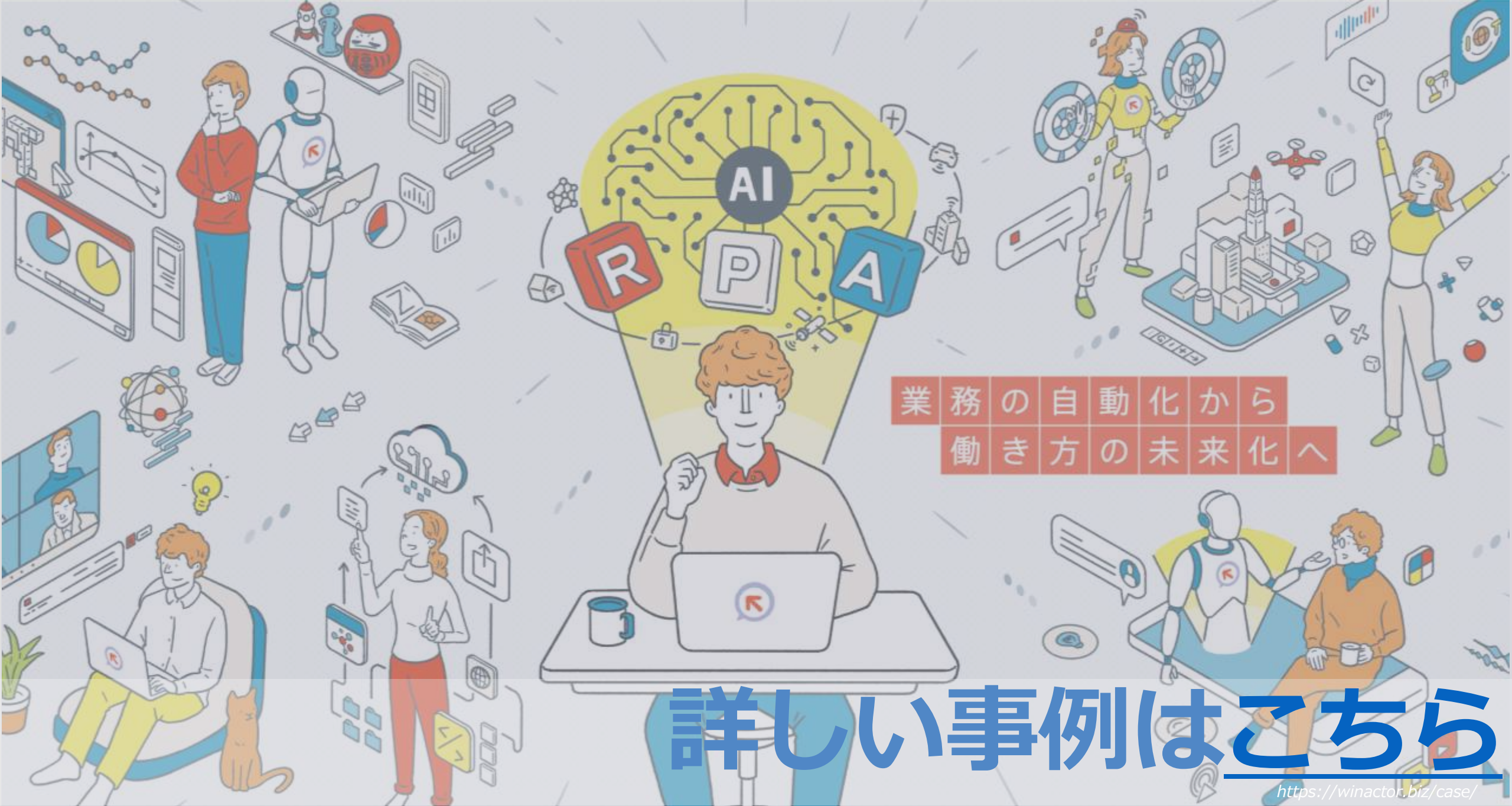
WinActor展開推進体制の
構築に成功

— WinActor導入・展開の効果 —

12社94事業所 **100名**のシナリオ構築人材

1年で **100本**のシナリオ稼働

10,000時間の年間業務時間削減

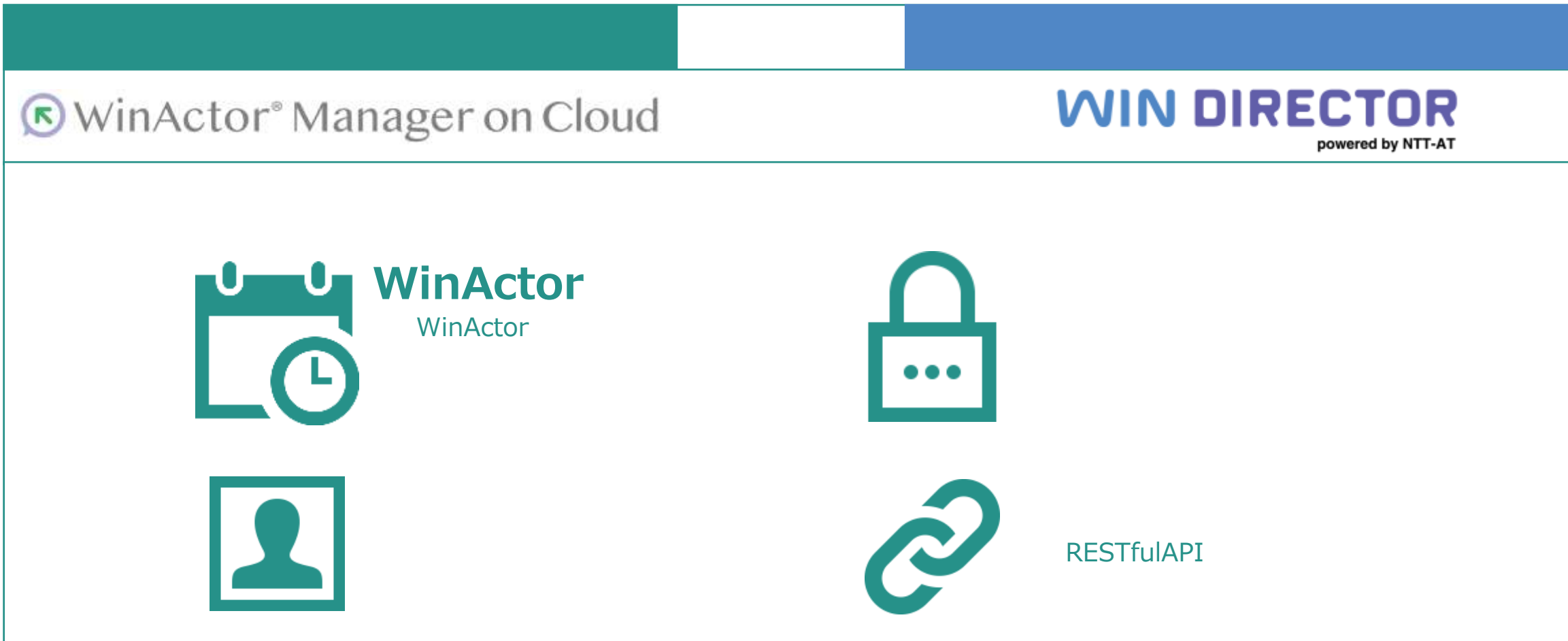


業務の自動化から
働き方の未来化へ

詳しい事例は [こちら](https://winactor.biz/case/)

<https://winactor.biz/case/>

RPA
NTT-



The screenshot shows the WinActor Manager on Cloud interface. At the top left, it says "WinActor® Manager on Cloud". At the top right, it says "WIN DIRECTOR powered by NTT-AT". The main content area is divided into four quadrants by a grid. The top-left quadrant contains a calendar icon with a clock, the text "WinActor", and "WinActor" below it. The top-right quadrant contains a padlock icon with three dots inside. The bottom-left quadrant contains a person icon. The bottom-right quadrant contains a chain link icon and the text "RESTfulAPI".



WinActor®はNTTアドバンステクノロジーの登録商標です。

參考資料



一般的な導入の流れ

- RPA導入の一般的な流れをご紹介します。導入プロジェクトの実施期間はRPAの導入対象とする業務の数やシナリオをどの程度作成するかによって変動します。

RPA導入プロジェクト

計画策定

1. 業務改革/業務改善の目的を定める
2. RPA導入の企画を立案する
3. RPA導入プロジェクト全体の計画を策定する

業務分析

1. RPA導入の対象となる業務を選定する
2. RPA導入対象業務フローを可視化する
3. RPA導入後の業務フローを設計する

PoC

1. PoC計画を策定する
2. 業務自動化ロボット/シナリオを作成する
3. 効果測定し導入展開効果を試算する

導入

1. RPA導入計画を策定する
2. 業務自動化ロボット/シナリオを配布する
3. ロボット/シナリオの使い方を教育する

RPA運用

運用

1. ロボット/シナリオ実行
2. 実行結果確認
3. RPA導入効果測定/検証

保守改修

1. 実行エラー対応
2. 連携システムのアップデートに伴う対応

維持管理

1. RPA仕様書/業務フローなどのメンテナンス
2. 保守改修内容の周知

他業務へのRPA導入(展開)を企画

導入アプローチごとの特徴（1/2）

- RPA導入のアプローチはトップダウン型とボトムアップ型があり、それぞれメリット・デメリットをご紹介します。

トップダウン型のメリット・デメリット

投資対効果	<p>○導入当初より投資対効果を意識して進めるため、投資対効果の評価が行いやすい。</p>	組織横断	<p>○経営企画、IT部門、現場でプロジェクトチームを作り、組織内の様々な見識をあわせた推進がしやすい。</p>
開発コスト	<p>×RPA開発専門のチームがない場合、外部のリソースが必要となり開発コストがかかりやすい。 ×大規模な導入になりやすく、業務ヒアリング等のコミュニケーションコストが大きい。</p>	現場感	<p>×開発時に現場の意見が取り入れられないことがあり現場との認識にギャップが生じることがある。 ×導入時に現場からの反発が起きることがある。</p>
スピード感	<p>×プロジェクト開始当初はなかなかゴールイメージが湧かず、モチベーションが高まりづらいため、導入スピードは遅くなりがちとなる。</p>	人材育成	<p>○RPAの専任チーム・専任担当者を決めやすい。 ○社員をRPA開発ができる人材に育てようとすることが多く、RPA開発スキル習得時間の確保に理解が得やすい。</p>
運用・管理	<p>○開発ルールに基づいた均質なシナリオを作成できるため、管理しやすい。</p>	展開・浸透	<p>○各部署で担当を決めて取り組むことが多く、組織の展開、浸透が進みやすい。 ○組織全体で見たときに注力すべき領域を経営判断できる。</p>

導入アプローチごとの特徴 (2/2)

- RPA導入のアプローチはトップダウン型とボトムアップ型があり、それぞれメリット・デメリットをご紹介します。

ボトムアップ型のメリット・デメリット

投資対効果	×小規模導入となりやすいため大きな投資対効果を出しづらく、取り組みを評価されづらい。	組織横断	×RPA導入部署に留まった活動になりやすい。
開発コスト	○現場主体でシナリオ作成を進めることが多く、シナリオ数も多くないため開発コストは限定的であることが多い。	現場感	○RPA導入を現場のニーズや多様性を取り入れながら進めやすい。
スピード感	○現場担当者は業務プロセスに精通しているため、WinActor導入・シナリオ作成をスムーズに進めやすい。	人材育成	○現場担当者とRPA開発者が一致しRPAスキルの習得が早いことがある。 ×RPAスキルが属人化しやすい。
運用・管理	×シナリオ作成担当者によってシナリオの品質にばらつきがあり、管理コストが大きくなりやすい。	展開・浸透	×全体で見たときに大きく効率化されるべき業務がRPA適用業務に選ばれないことが多い。 ×展開するために関連部署との細かな調整が必要となりやすい。

